

上部頸椎専門 20

カイロプラクティック 臨床レポート

日本上部頸椎カイロプラクティック協会正会員 廣川 広孝*

上部頸椎一箇所のアジャストメントによる身体の変化を臨床例から報告しています。今回は股関節の症例です。

臨床におけるルールは以下のとおりです。

1. 病気・症状の診断、治療は行いません。
2. 必ず検査を行い、上部頸椎のサブラクセイションの有無を確認します。
3. 検査の結果、上部頸椎にサブラクセイションがなければ、アジャストメントは行いません。
4. 他の療法との併用、健康器具を使用しないで様子を見て頂きます。

上部頸椎の状態は、人体が生まれながら持つ能力（先天的）を活かし続ける為に大きく関与します。赤ちゃんは生まれて2～3ヵ月して首が座ると言われますが、それ

から自らの力（先天的知能）により、頭を持ち上げ、寝返り、ハイハイ、お座り、捕まり立ちをして歩行し始めます。この過程には教育脳である後天的知能は、特に必要ありません。それは、その後の成長過程においてもいえます。そこで重要なことは、人体が生まれ持った能力を最大限に活かし続けて行くのに必要な要件を我々が理解して、術者として実践することです。

上部頸椎専門カイロプラクティックは上部頸椎のズレにより神経伝達妨害が起きている状態を改善して、その人の本来の備えている能力（活動力）を活かすように手助けをします。

症例

股関節手術を回避した男性

性別：男性 年齢：51歳 職業：会社員

*廣川広孝（ひろかわ・ひろたか）
●連絡先：廣川カイロプラクティックオフィス
〒446-0072 愛知県安城市住吉町3-9-22
TEL & FAX. 0566-97-5515
協会HP：www.specific.jp

●経緯：平成19年6月、左股関節に痛みを感じて歩行困難になり、整形外科にて受診した。過去、平成18年4月に左股関節化膿性股関節症で関節部の膿を摘出手術したことがあり、診断ではその影響で大腿骨頭と寛骨臼窩の間隔が狭くなり、動きに抵抗（摩擦）が起きて痛みが生じているとのことで、暫く様子を見ていたが、痛みは変わらず今年の2月26日に人工関節の手術を受けることとなった。しかし、体全体にも不調を訴えていたので、奥さんの勧めで手術の約1ヵ月前に来院された。

初回・来院1回目 2008.1.23

●アジャスト前の検査

伏臥・仰臥共に左足が0.3cm短い。
 仰臥における両手挙上で左手が0.3cm短い。
 伏臥位両膝屈曲にて左腰痛・左膝痛あり。
 仰臥位左開脚70度で左股関節痛・可動制限あり。
 重心：右後方（P12図参照）
 皮膚温度：左側が全体に温度が高い。（P14図参照）
 身長：176.0cm

上部頸椎リスティングASLPでアジャストして休息用ブースで60分間休んでいただく。

●アジャスト後の検査

伏臥・仰臥共に足の長さが揃う。
 仰臥における両手挙上で手の長さが揃う。
 伏臥位両膝屈曲にて左腰痛なし・左膝痛あり。
 仰臥位左開脚90度で左股関節痛・可動制限なし。
 重心：中心後方（P12図参照）
 皮膚温度：左右の温度差がほぼなくなる。（P14図参照）
 身長：177.4cm

2回目 2008.2.7

●検査結果

伏臥位にて左足0.3cm短い。
 仰臥位にて手足共に揃う。
 重心：P12図参照
 皮膚温度：P14図参照
 身長：176.7cm
サブラクセーションなし。アジャストせず。

3回目 2008.2.27

●検査結果

伏臥位にて足揃う。
 仰臥位にて左足0.2cm短い。
 仰臥位にて手揃う。
 重心：P12図参照
 皮膚温度：P14図参照
 176.5cm

サブラクセーションなし。アジャストせず。

4回目 2008.3.25

●検査結果

伏臥位にて足揃う。

仰臥位にて手足共に揃う。

重心：P12図参照

皮膚温度：P14図参照

身長：177.5cm

サブラクセーションなし。アジャストせず。

5回目 2008.4.23

●検査結果

伏臥位にて左足が0.2cm短い。

仰臥位にて左足が0.1cm短い。

仰臥位にて手揃う。

重心：P12図参照

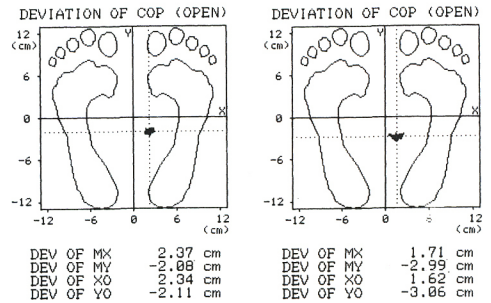
皮膚温度：P14図参照

身長：177.4cm

サブラクセーションなし。アジャストせず。

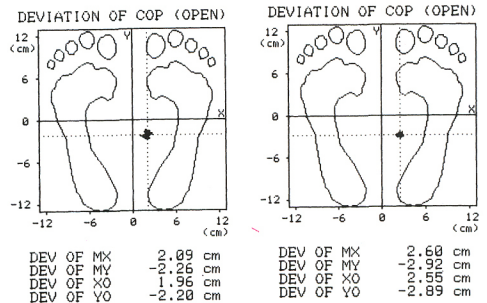
●経過：来院1回目のアジャスト後から、それまで辛く感じていた左股関節の痛みが和らぎ、歩き具合や曲がり具合に変化を感じられ、2週間後の2回目の来院時にはご本人から股関節手術を延期した旨を聞いた。初回の1月23日にアジャストを受け、1月31日に手術予定の病院で股関節のX-RAYを撮った際、それ迄の状態から少し良

くなっていると医師からも言われ、まずは半年間様子を見ることになったとのこと。この2週間で体を動かすなどして、まだ長く歩くと痛むが、胃の調子も良くなり胃薬を飲まなくなり、左眼の不快感もなくなるなど、さまざまな快方への兆しを感じた。



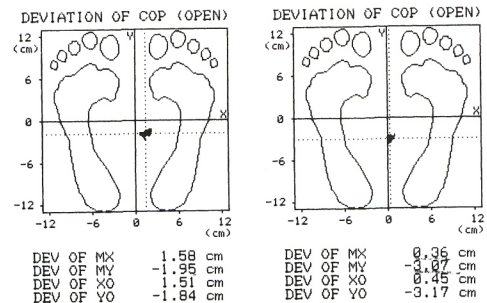
1月23日 アジャスト前

1月23日アジャスト後



2月7日

2月27日



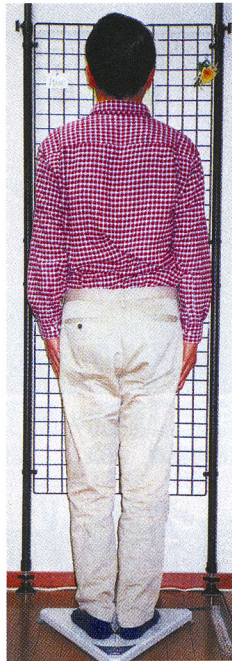
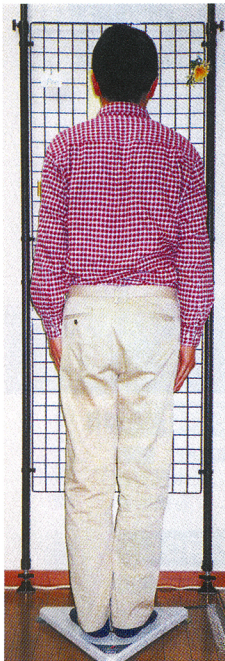
3月25日

4月23日

3回目の来院時には、食欲が出てきて1ヵ月の間に体重も5キロ増えた。4回目の来院時には、10～15分ほど歩けるようになり奥さんから歩き方が良くなったと言われる。5回目の来院時には、内科の検査も異常なく精神的にも安定して、読書や植物を観察するなど余裕も出てきた。また、最近では30分ほど痛みなく歩けるようになり、外出も楽しくなり、汗もよくかき、夜も良く眠れるという。

●施術者コメント：この男性が、私のオフィスに最初にいらした時には私もこれ程の変化を予測していませんでしたし、ご本人

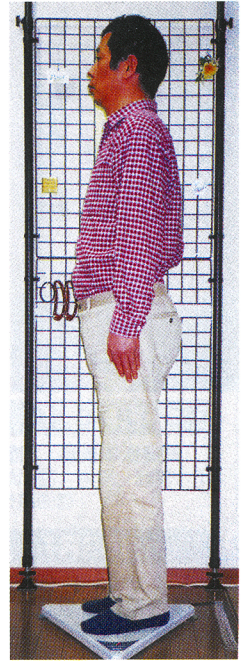
もここまで期待されていませんでした。股関節手術を受けるのはその時の状態では当然のことだと考えていたからです。私自身はその男性の先天的知能（イネイト・インテリジェンス）に体全体の改善を委ねて、アジャストしただけです。しかしそこから、大きな可能性が出てきたのです。上部頸椎がいかに健康のカギであるか。その後の検査を通して、私自身もこの男性の回復力に驚かされた次第です。ご本人も体の変化がとても不思議であり、嬉しいとおっしゃっています。



1月23日

アジャスト前

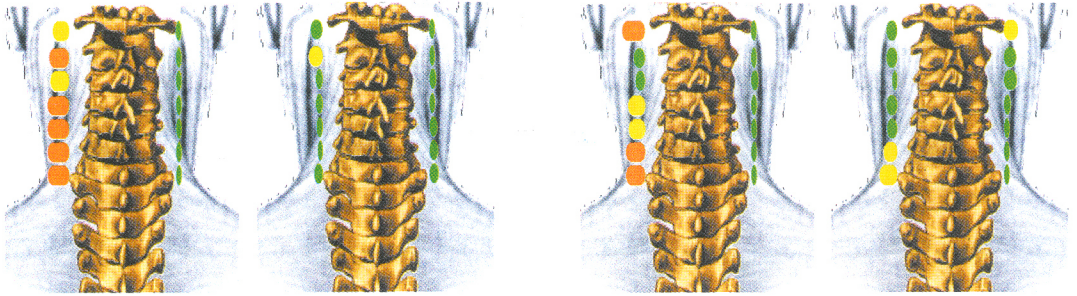
アジャスト後



1月23日

アジャスト前

アジャスト後



1月23日

2月7日

2月27日

アジャスト前

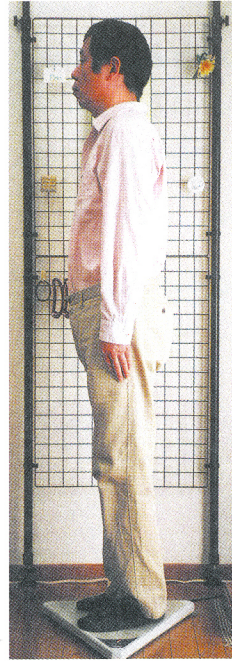
アジャスト後



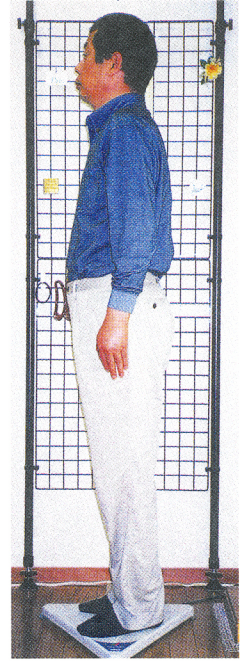
2月7日



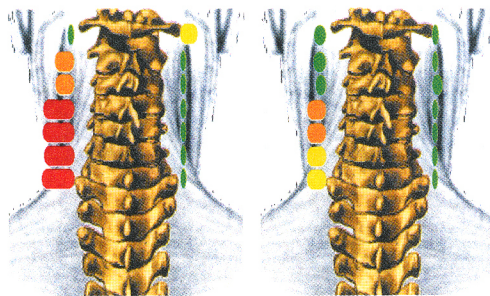
4月23日



2月7日



4月23日



3月25日

4月23日